2018･3･28

「平成29年度繊維科学センター研究報告会に参加して」

真多 勇夫（繊維化学科 1962年卒業）

本年3月16日の「繊維科学センター平成29年度ネオファイバーテクノロジープロジェクト研究報告会」を聴講したきっかけは、ＫＩＴ同窓会会員からのメール情報による。

私は総合繊維メーカーを定年退社してから約20年を経過しており、その間、業界の状況や技術の変遷進歩の外側にいながらも、緩い関心は持ち続けていたので、久しぶりに興味をそそられ、野次馬的興味から聴講させていただいた

現役時代には、ビニロンの製造現場に約10年携わり、その後レーヨン、ナイロン、ポリエステルスパンボンドなどの生産管理を経験してきた。

お蔭で、本研究報告会の報告内容については、詳細な技術的内容は別として、概念的には、生半可ではあるが半分ぐらいは、理解できたような気になった。

研究報告では報告順に「セルロースコンフォメーションの制御可能性の研究」は、イオン液体中のセルロースの形態を非溶媒の添加によりコントロールできるというものであり、「綿繊維の耐燃性と熱参加反応機構の研究」ではリン系難燃剤の効果の仕組みの考察が興味深かった。次にポリ乳酸繊維の結晶化と強度に関する考察、およびポリ乳酸繊維性能を向上させる研究も曳糸性を考慮した別の汎用性ポリマーと共通するものであった。

後半の発表では美術工芸資料館の織物資料のデータベース化は、貴重なサンプルの価値を高めるための大切なことが分かった。次の子宮頸がん検診用の採取器具の検証は企業との提携で効果が上がりそうに思えた。最後の「次世代スマートテキスタイルの創造と標準化」と題したスマートテキスタイルの概念は、人間にとって役に立つ機能性をテキスタイルに持たせる事と理解した。しかし従来からの機能付加、加工改良と同じではないかと思えたが、繊維素材とその加工技術ならびに環境負荷も考慮した総合的な「スマート」化と理解したい。最後に本大学のアイデンティティーの一つとして繊維関連講座の充実を期待したい。

以上